

□■受験対策ミニ講座 7号 2019□■

台風、水害の続いた10月が終わり、11月に入りました。30期生のみなさん、修了おめでとうございます。被災地域に一日も早く平常の暮らしが戻ることを願いつつ、気を引き締めて進んでいきましょう。今回は「福祉水準を測定する社会指標」についての過去問をとりあげます。災害時における福祉の役割など「暮らしと福祉」そして「幸福」について考えてみたいと思います。

【31回 15 社会理論と社会システム】

次のうち、社会の福祉水準を測定する社会指標として最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 失業率
- 2 GDP
- 3 消費者物価指数
- 4 幸福度指標
- 5 財政力指数

正解と解説は最後に記載しています。

■Plus Column

【幸福度指標】

「福祉」を辞書でひくと「幸福」とあります。「社会福祉」をひくと「社会福祉は多義的、時代によって様々な定義がある」などとあって、少し当惑させられます。ここでは社会福祉とは「人びとの幸福な生活をめざす営み」と定義して、「福祉と幸福」について考えてみたいと思います。

「国民の多くが幸福と感じている」というブータン王国は、経済的には豊かな国ではありませんが、教育費、医療費、地域によって水道料金も無料だそうです。1970年代、ブータン国王は「GDP 国民総生産」に代わる指標として「GNH 国民総幸福量 Gross National Happiness」という独自の概念を発表しました。これがきっかけとなって、世界に物質的、経済的な豊かさを前提としない「幸福度指標」を開発する動きが広がりました。

21世紀に入って国連は3月20日を「国際幸福デー」に定め、「世界幸福度報告書」を発表するようになりました。4号でご紹介したOECDによる「より良い暮らしイニシアチブ」は、主観的幸福度データについての国際社会への問題提起です。

日本政府も2011年に「幸福に関する研究会報告書」を発表しています。報告書は「わが国には所得の増加にも関わらず主観的幸福感が低いという課題がある...個々人がどういう気持ちで暮らしているのかに着目する必要がある」と述べています。そして「主観的幸福感」を上位概念に置き、経済社会状況・心身の健康・関係性を三本の柱に、さらに持続可能性を別立てとした指標を示しています。

被災地ではライフラインの整備や生活再建が最優先であることは言うまでもありませんが、その先にどのような暮らしを築いていくのか。地球環境への配慮、持続可能性という視点を持ちながら、主観的幸福度を重要な指標として、「暮らしと福祉」を再構築していくことが求められる時代がきているように思います。

■Back Number

過去のバックナンバーはこちら→http://www.aigo.or.jp/yoseijo/?page_id=2686

【31回 15：解説と正解】

「幸福度指標」は29回に出題、31回には問題15と問題27でも出題されています。

- 1× ここでは、失業率は「最も適切」とは言えません
- 2× GDP 国内総生産は経済指標。
- 3× 消費者物価指数は、消費者が購入する生活用品の価格変動を示す指数。
- 4○ 「生活の質」を重要な要素とし、主観的幸福感を重要視する新しい指標が開発されています。
- 5× 財政力指数は、地方公共団体の財政力を示す指数。

※掲載内容の転載・再配布はご遠慮ください。

※メール内容に対する個別の対応は行っておりません。

※問い合わせ等については社会福祉士養成所ホームページより行えます。

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-7-19 K D X 浜松町ビル 6F

Copyright2016 YoseijoNewsplus